

行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

びぶろすーBiblos

99号（令和6年12月）

令和6年度国立国会図書館長と 都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会



表紙画像：

（左上）令和 6 年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

石川県立図書館長 田村 俊作氏

（右上）令和 6 年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

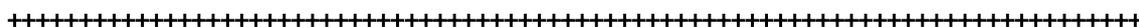
岩手県立図書館長 森本 晋也氏

（左下）いしかわ総合スポーツセンターでの「出張 石川県立図書館」

（右下）岩手県立図書館 トルーム

99号（令和6年12月） 目次

『びぶろす』99号刊行にあたって 2



令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会
国立国会図書館総務部支部図書館・協力課 3

令和6年能登半島地震と石川県立図書館
石川県立図書館長 田村 俊作 4

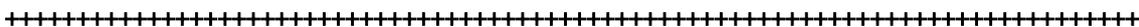
図書館で復興・防災を学ぶ～震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を拠点として～
岩手県立図書館長 森本 晋也 9

国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館特別研修「図書館資料のデジタル化」について
国立国会図書館総務部支部図書館・協力課 14

令和6年度国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館職員への感謝状贈呈
国立国会図書館総務部支部図書館・協力課 16

図書館でデータベースを作るとは？
支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館 倉嶋 明子 17

（イベント案内）令和6年度東日本大震災アーカイブシンポジウム—震災アーカイブが残すべき「記録」と「記憶」について—



『びぶろす』99号刊行にあたって

『びぶろす』99号では、令和6(2024)年6月に開催した「令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会」等について御紹介します。

懇談会のテーマは「災害、防災、図書館」で、石川県立図書館から令和6年能登半島地震の被災状況や同館による支援について、岩手県立図書館から同館における復興・防災学習の取組について御報告いただきました。図書館における防災は今後ますます重要な課題になると思われます。両館の事例は今後の取組を考える上で大変参考になるのではないのでしょうか。

行政・司法各部門の支部図書館では、近年、所管する資料のデジタル化を課題としている館が少なくありません。そこで、国立国会図書館では令和4年度から支部図書館職員特別研修「図書館資料のデジタル化」を開催してきました。今年度の研修では、これまでの講義に加え、より具体的な作業イメージをつかんでいただくため、メディア変換室の見学や資料撮影作業の体験も行いました。研修の概要について御紹介します。

支部図書館に10年以上勤務し、支部図書館の向上発展に寄与した支部図書館職員に、国立国会図書館長から年1回感謝状を贈呈しています。今年9月に感謝状を贈呈された支部図書館職員から、これまでの支部図書館勤務を振り返る記事をお寄せいただきました。図書館職員は2000年代以降、データベースなどのシステム開発や、デジタルでの資料提供にも携わります。業務を遂行する上で知識や技術を更新していく姿は、多くの方にとって参考になると思われました。

今号が皆様の業務の参考になれば幸いです。

(編集担当)

令和6年度国立国会図書館長と都道府県立 及び政令指定都市立図書館長との懇談会

国立国会図書館総務部支部図書館・協力課

令和6(2024)年6月27日、標記の懇談会を開催した。本懇談会は、国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図るため、都道府県立及び政令指定都市立図書館長等を招いて国立国会図書館が開催しているものである。今回は令和元(2019)年度以来5年ぶりに対面形式で開催し、64館から72名の図書館長等が参加した。



はじめに、文部科学省の高木秀人総合教育政策局地域学習推進課長が、最近の図書館行政の動向について報告した。続いて、今年度の懇談会のテーマ「災害、防災、図書館」の下、石川県立図書館の田村俊作館長が、令和6年能登半島地震の同館及び県内の他図書館における被災状況と同館が行った支援について報告し、岩手県立図書館の森本晋也館長が、同館の震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」の概要と「I-ルーム」を活用した復興・防災教育の事例等について報告した。その後、8グループに分かれて各館の防災対策等について懇談を行った。

今号では、この懇談会における両県立図書館長の報告の要約を掲載する。

(こくりつこっかいとしょかん そうむぶ しぶとしょかん・きょうりよくか)

【令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会】

令和6年能登半島地震と石川県立図書館

石川県立図書館長 田村 俊作

(本稿は、本号 p.3 で開催を報告した「令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会」において、田村俊作石川県立図書館長が報告した内容を、御本人の了承を得て、国立国会図書館総務部支部図書館・協力課がまとめたものである。なお、内容は、令和6年6月時点のものである。)

1 石川県における地震の状況

令和6(2024)年元日の夕方に発生した令和6年能登半島地震は、能登半島の市町を中心に北陸地方に大きな被害をもたらした。志賀町の震度7をはじめ、強い揺れにより多くの建物が倒壊等の被害を受けた。また能登以外でも、地盤の弱い所では液状化現象による被害が発生している。

地震による人的被害は、6月18日現在で災害関連死を含め260人となっているが、災害関連死の認定が進んでおり、併せて300人を超えることは確実視されている¹。住家の被害は8万3千を超えており、なかには津波による被害も含まれる。

ライフラインの中では電気やガスは比較的早い時期に復旧したが、上下水道や道路の復旧は遅れた。水道管は全て一応復旧したが、各家庭への引き込みは業者不足等により遅れている。道路の復旧も進められているが、幹線道路にもいまだ啓開していない箇所が残っている。



1. 石川県における地震の状況

(1) 発生時刻 令和6年1月1日16時10分頃
(2) 震源地 石川県能登地方(震源の深さごく浅い)
(3) 地震の規模 マグニチュード7.6
(4) 県内の震度
[震度]・震度7:志賀町
・震度6強:七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町
・震度6弱:中能登町、能登町
・震度5強:金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
・震度5弱:白山市、津幡町、内灘町
・震度4:野々市市、川北町

3

図1 石川県における地震の状況(震度等)



1. 石川県における地震の状況

令和6年6月18日現在

| 人的被害(人) | |
|---------|----------------------|
| 死者 | うち災害関連死 [※] |
| 260 | 30 |

※災害関連死:震災後に災害による負傷の悪化・身体的負担による疾病のため死亡

| 住家被害(棟) | | | | |
|---------|--------|--------|----|--------|
| 全壊 | 半壊 | 一部損壊 | 浸水 | 計 |
| 8,063 | 16,720 | 58,537 | 11 | 83,331 |

| 避難者数(人) | ピーク時 | 約 | 34,000 | ⇒ | 2,471 |
|---------|------|---|--------|---|-------|
|---------|------|---|--------|---|-------|

| 断水 | ピーク時 | 16市町 | 約11万戸 | 5月31日 | 解消 |
|----|------|------|-------|-------|----|
|----|------|------|-------|-------|----|

4

図2 石川県における地震の状況(被害状況等)

*本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2024年11月22日である。

¹ 2024年11月22日現在、死者456人(うち災害関連死229人)

「目的別・令和6年(2024年)能登半島地震に関する情報(対策本部・被災状況):被害報告」石川県ウェブサイト <<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/202401jishin-taisakuhonbu.html#higai>>

2 県立図書館における被災状況

石川県立図書館が立地する金沢市では、震度 5 強の揺れが観測されたが、建物が地盤の強固な台地上にあり、免震構造であること、同館の特徴である円形空間が想定以上に地震の揺れに強かったことから、被害が比較的小規模で済んだ。円形空間以外の開架書架から約 1,000 冊（全体の約 0.1%）の図書が落下し、傾いた書架やこどもエリアの照明器具破損等もあったが、全体として被害が軽微だったため、本来開館日だった 1 月 4 日は安全点検のため臨時休館とし、職員による点検及び業者による仮復旧を行い、安全性を確認のうえ 1 月 5 日から開館した。

3 県内公共図書館における被災状況

県内公共図書館では、奥能登にある 4 市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）と志賀町、七尾市にある館が、大きな被害を受けた。ここでは 4 館を紹介する。

平成 31（2019）年に開館した珠洲市民図書館は、免震構造だったために書架の倒壊等はなかったが、本の落下や照明器具の破損等、相当の被害を受けた。令和 5（2023）年 5 月の奥能登地震で受けた被害の復旧を同年 12 月に終えたばかりで、その数日後に再度被災した。

志賀町立富来図書館では、文学の棚がドミノ倒しで倒れたが、地域の方や図書館員により復旧し、2 月 1 日から開館した。

輪島市立図書館は、老朽化が進み、かねてより耐震基準を満たしていないことを指摘されていたため、新館の建設計画が進んでいたところで被災した。開架書架の多くが倒壊、移動し、6 万冊ほどの開架図書の大部分が落下したほか、スプリンクラーの誤作動により一部水濡れも発生した。電動の開架書庫にはゆがみや傾きが発生し、本の落下は少なかったが取り出すことができなくなっている。同館は、隣接する道の駅の会議室において仮設営業としてサービスを再開した。建替えの計画が進んでいるため、既存の図書館でサービスを再開する予定はなく、今後の運営方法は大きな課題の一つとなっている。

穴水町立図書館は、建物が 1 次避難所に指定されているため、2 階にある図書館は閉鎖され、本は段ボール箱に詰めて床置きされ、空いた書架に物資が置かれている。避難者が全員仮設住宅に入居するまで開館は難しい状況である²。



写真 1 輪島市立図書館（2024 年 1 月 19 日撮影）



写真 2 穴水町立図書館（2024 年 3 月 5 日撮影）

² その後 2024 年 7 月 10 日に曜日を限定して開館を再開した。

「穴水町立図書館「半年ぶり」再開 週 4 日、館内一部除き」中日新聞ウェブサイト, 2024.7.11

<https://www.chunichi.co.jp/article/926126?rct=k_ishikawa>

4 県立図書館としての支援

県立図書館として実施している支援には、資料情報の提供、県職員としての被災地への派遣、震災関連のイベントの開催、ネットワークを通じた県内図書館の連携、他機関・団体との連携がある。

4.1 資料情報の提供

まず、県立図書館のホームページ上に「令和6年（2024年）能登半島地震からの復旧・復興」ページ³を開設し、震災関連のデータベース、ブックリスト、リンク集等を掲載した。また、3階の郷土コーナーと1階のこどもエリアで、災害・防災・復興に関連する本等を展示した。いずれもよく利用されているが、特にこどもエリアの本は、大変よく利用されている。

さらに、1.5次避難所の一つ「いしかわ総合スポーツセンター」に、「出張 石川県立図書館」として当館の本を設置し、避難者に自由に利用していただいている。高齢者が避難者の中心のため、高齢者に好まれそうな本（健康管理、体力づくり、小説（歴史小説等）、人生訓・宗教関係、スポーツ、写真集、大活字本等）を中心に210冊を選書した。



写真3 石川県立図書館こどもエリアでの展示



写真4 いしかわ総合スポーツセンターでの「出張 石川県立図書館」

4.2 県職員としての被災地への派遣

図書館員も県職員として被災地等に派遣され、避難所の運営や支援物資の管理等を行っている。令和6年3月末までは被災地のほか1.5次避難所にも派遣していたが、同年4月からは常時1名を交替で被災地に派遣している。

³ 「令和6年（2024年）能登半島地震からの復旧・復興」石川県立図書館ウェブサイト
<<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/booksearch/4119.html>>

4.3 震災関連のイベントの開催

県立図書館内のイベントスペースでは、震災関連のイベントが多数開催されている。能登地方を代表するブランド木材である能登ヒバで製作したピアノを期間限定で館内に設置し、来館者が演奏できるようにしたほか、能登半島地震に思いを寄せるピアニストに演奏していただきSNS上でも公開し大きな反響を得た。

そのほか、能登の農産物を中心にしたマルシェ、地元出身作家等によるチャリティー・トーク、地元スタジオのあるアニメ制作会社とのコラボによる能登の子ども達を招いてのアニメ上映とトークショー等、能登に関連した様々なイベントを行っている。



4. 県立図書館としての支援

震災関連イベント

能登半島地震に思いを寄せるピアニストによる
「能登ヒバ」ピアノ演奏



能登ヒバで製作したピアノを期間限定で図書館に設置



チカコシュカさん
Youtubeで演奏を公開。
当日演奏を聞かれた能登の方との交流も



角野隼斗さん
Xで演奏を報告
→35万回表示

15

図3 震災関連イベント（「能登ヒバ」ピアノ）



4. 県立図書館としての支援

震災関連イベント



ビブリオミニマルシェ
能登を中心とした県産食材の販売・体験イベント



小説家・漫画家等によるチャリティー・トーク

16

図4 震災関連イベント（マルシェ等）

4.4 ネットワークを通じた県内図書館の連携

ライブラリーネットという県内公共図書館間システムを使って、支援の必要な図書館に情報を提供してもらい、支援できる図書館・図書館員とつないでいる。図書館の復旧には、書架に資料を戻す作業等、本の扱い方を知っている図書館員でなければできないことが多々あるために、現場経験者の支援が求められている。

また、震災関係資料の収集と保存をライブラリーネット経由で呼びかけたほか、被災図書館からの要請に応じて、支援物資としての本の送付はやめるよう一般の方に呼びかける記事を、Xに投稿した⁴。

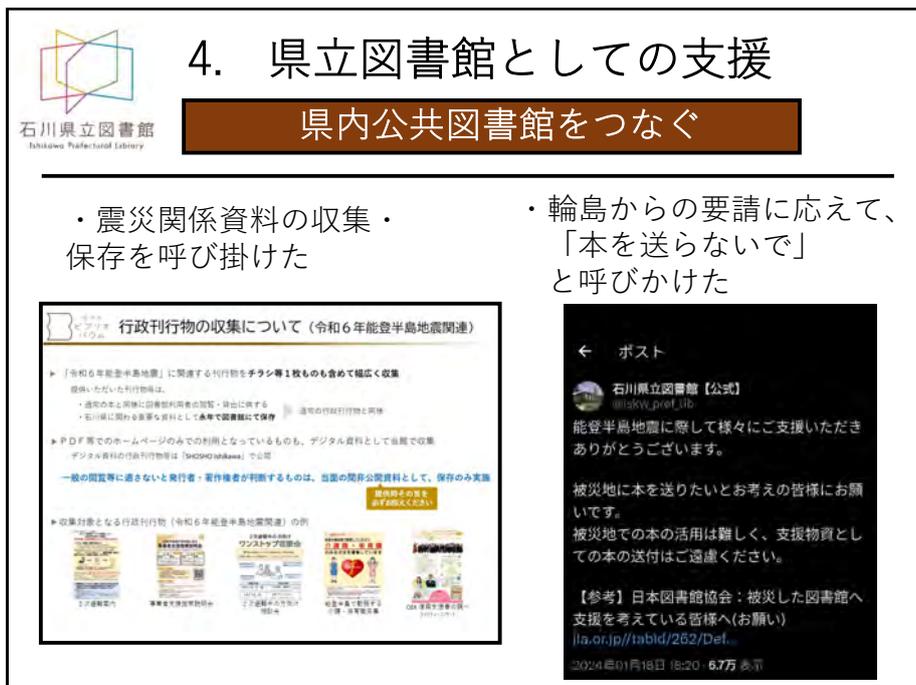


図5 震災関係資料の収集・保存の呼びかけ

4.5 他機関・団体との連携

日本図書館協会図書館災害対策委員会の方は、被災地の図書館の復旧・復興に向けて熱心に動いてくださり、同委員会、当館及び被災地の図書館でオンラインミーティングを行っている。また、震災関係資料やデジタル資料を効果的に収集するため、国立国会図書館に、令和6年1月から3月までの期間、被災地域自治体のウェブサイトのデータ収集の頻度を上げるよう依頼し、御協力いただいた。

5 おわりに

今回の震災に際しては、多くの皆さまから温かいお言葉と御支援をいただき、大変感謝している。今なお再開できていない図書館、サービスを続けながら復旧に努めている図書館、職員が避難したまま退職してしまい欠員の補充に苦勞している図書館等がある。被災した図書館の復旧への一層の御支援をお願いします。

(たむら しゅんさく)

⁴ 石川県立図書館【公式】 (@iskw_pref_lib) . 「能登半島地震に際して様々にご支援いただきありがとうございます。被災地に本を送りたいとお考えの皆様へお願いです。……」 (2024年1月18日のポスト)
<https://x.com/iskw_pref_lib/status/1747911706993447410>

【令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会】

図書館で復興・防災を学ぶ

～震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を拠点として～

岩手県立図書館長 森本 晋也

(本稿は、本号 p.3 で開催を報告した「令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会」において、森本晋也岩手県立図書館長が報告した内容を、御本人の了承を得て、国立国会図書館総務部支部図書館・協力課がまとめたものである。なお、内容は、令和6年6月時点のものである。)

1 岩手県立図書館の概要

岩手県立図書館は、岩手県盛岡市のいわて県民情報交流センター（アイーナ）内にあり、図書約84万冊、逐次刊行物約6,200種を所蔵している¹。なかでも、同県出身の代表的な文学者である宮沢賢治と石川啄木に関する資料については、その著書をはじめとして、伝記、研究資料に至るまで開館以来網羅的に収集し、その一部をデジタルデータで公開している²。

平成23(2011)年には、東日本大震災で被災したが、速やかな復旧と県内図書館への支援活動に取り組み³、令和4(2022)年には創立100周年を迎え、翌令和5(2023)年には第109回全国図書館大会を同館で開催した。また同年、本報告の中心である震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を開設した。

岩手県立図書館の概要

沿革

| | |
|-------------|--------------------------|
| 1922年(大正11) | 開館 |
| 1968年(昭和43) | 二代目館開館 |
| 2006年(平成18) | アイーナ(いわて県民情報センター)に三代目館開館 |
| 2011年(平成23) | 東日本大震災津波発生 |
| 2022年(令和4) | 創立100周年 |
| 2023年(令和5) | 「I-ルーム」開設 |
| 同 | 第109回全国図書館大会 |

蔵書数

840,893冊
(うち開架冊数 136,023冊)



アイーナ(いわて県民情報センター)



岩手県立図書館 (アイーナ内1階～4階)

岩手県立図書館

図1 岩手県立図書館の概要

*本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2024年11月22日である。

¹ 「1 県立図書館の概要」『図書館要覧』(令和6年度版) 岩手県立図書館編, 2024, p.7.[国立国会図書館請求記号: Z71-H384]岩手県立図書館ウェブサイト

<https://www.library.pref.iwate.jp/aboutus/youran/r6/r6_youran2.pdf>

² 「イーハトーブ岩手電子図書館」岩手県立図書館ウェブサイト

<<https://www.library.pref.iwate.jp/ihatov/index/sakuin.html>>

³ 「東日本大震災に係る被災地・被災者支援」2011.10 岩手県立図書館ウェブサイト

<<https://www.library.pref.iwate.jp/aboutus/kyougikai/23/23002.pdf>>

2 東日本大震災津波における岩手県立図書館の取組

東日本大震災により県立図書館も被害を受けたが、同館が入っている建物であるアイーナ自体が避難所となり、避難者を受け入れた。また、沿岸部では図書館そのものが津波により壊滅的な被害を受けたところもあったため、例えば写真資料の仕分け作業や被災図書修復作業、その他可能なことを支援した。

この時の教訓を基に、岩手県公共・大学・専門図書館等連絡協議会で県内の図書館の災害時の相互応援体制を構築した。また、被災時により適切な相互応援ができるよう、この体制を順次見直している。



図2 東日本大震災津波における岩手県立図書館の取組

3 震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」

令和5(2023)年11月3日に、震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を県立図書館内に開設した。東日本大震災からまもなく13年を迎えようというタイミングで同スペースを開設したのは、同震災以降に生まれた子どもが増え、被災地でも小中学生は東日本大震災について学んでいく必要があることから、改めて震災の教訓を未来に発信してつないでいき、次の災害の備えに結び付けるべく県立図書館を復興教育や防災教育の拠点にしようということが、岩手県の方針として挙げられたためである。

「I-ルーム」という名称は、児童生徒やグループによる学び合い、様々な資料等への出会い、愛と希望に満ちた岩手県(Iwate Prefecture)という様々な「I」にちなんで名付けられた。「I-ルーム」は、児童生徒等の復興や防災の探究的な学びの支援、自然災害や防災、安全を総合的に学ぶ拠点、県内の震災津波関連施設等のサテライト的機能という主に三つの役割を果たしている。



岩手県立図書館

図3 「I-ルーム」の開設

3.1 児童生徒等の復興や防災の探究的な学びの支援

県立図書館では、被災直後から震災関連資料の収集を開始し、現在3万6千点余りの資料を所蔵しており、うち1万2千点弱の資料を「I-ルーム」で開架している。被災から十数年が経ち、資料の発行団体も保存していない冊子等が県立図書館に行けばあるという状況である。

改めて今貴重になっているのは、各避難所で当時発行された手書きの新聞、ミニコミ誌、イベント・セミナー等のチラシなどである。図書館員はこれらの資料や関連図書を児童生徒等に提供し、レファレンス機能を活用して調べ方についてのアドバイスを行い、探究的な学びを支援している。また復興や防災だけでなく「SDGs」等の様々な課題に関する探究学習についても、課題に合わせた関連図書を提供し、さらに生徒達が自分で関連資料を調べられるよう支援している。

また、学校や各種団体への図書等のセット貸出も行っている。同サービスでは、学校のテーマに合わせて司書が選定した図書や資料を借りられるとともに、先生や生徒が必要な図書を選んでまとめて借りることもできる。なお、復興教育・防災教育以外のテーマにも対応している。

復興や防災に関するワークショップ等も企画し開催している。これまでに、日常の暮らしを豊かにしているものが非常時の生活や命を支えるという新しい防災「フェーズフリー」という考え方を学ぶワークショップや、県立図書館が所蔵する震災関連資料のテーマ別学習に対応したデジタルアーカイビングシステムの開発に向けたワークショップ、高校生が探究学習の成果を発表し、参加者に防災ボトル⁴の作り方をアドバイスするセミナー、能登半島地震の発生を

⁴ 外出中に被災した際に役立つグッズをプラスチック製のボトルに収納したもの。

受けて改めて地震防災について考えるための講演会とパネルディスカッション等を開催した。

震災関連資料の所蔵状況 2024年5月24日 現在

開架 (I-ルーム)

| 図書・雑誌・視聴覚 | 点数 |
|-----------|--------------|
| 東日本大震災 | 3,905 |
| 防災関連資料 | 789 |
| 自然災害関連資料 | 736 |
| 合計 | 5,430 |

| 収集資料 | 点数 |
|--------------|-------|
| 東日本大震災一枚もの資料 | 6,321 |

震災関連資料の収集のチラシ



平成23年3月1日に発生した東日本大震災、発生から現在にいたるまで、復興の歩み、被災者支援、復興などに関するさまざまな資料が積み重ねられています。岩手県立図書館では、震災の記憶を後世に伝えることと、被災者に寄り添うため、震災関連資料の収集に取り組んでいます。

たとえばこのような資料を集めています

- 震災関連の記録集、写真集(書籍資料も含む)など
- 震災に関する調査報告書・復興に関する計画書など
- 震災関連のイベント・セミナー・相談会等のチラシや配布資料など
- 個人・団体が作成した手記・文集など
- 各種の活動記録(ボランティア関係資料、避難所たよりなど)
- 震災に関わる内容のフリーペーパー、ミニコミ誌、チラシなど

このような資料を発行されましたら、県立図書館にご寄贈ください。※可能であれば、3部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

寄贈の方法は、ご持参いただくか下記宛てにお送りください。※郵送いただく場合は、送料の負担をお願いいたします。

※なお、ご寄贈いただきました資料の取り扱いについては、県立図書館に一任いただけますようお願いいたします。

岩手県立図書館
 〒990-0044 岩手県盛岡市南1-7-1 岩手県立図書館(震災資料部) 1F
 受付時間/TEL:019-666-1730 FAX:019-666-1731 E-mail: kyodok@library.pref.iwate.jp
 お問い合わせ / TEL:019-666-1730 FAX:019-666-1731 E-mail: kyodok@library.pref.iwate.jp

| 書庫排架分 | 点数 |
|--------------|---------------|
| 図書・雑誌・視聴覚 | 11,752 |
| 東日本大震災一枚もの資料 | 12,538 |
| 合計 | 24,290 |

総計 36,041点

岩手県立図書館

震災関連の自治体からのお知らせ、復興に関する計画書、調査報告書、記録集、イベント・セミナー等のチラシ、避難所で発行した新聞、ミニコミ誌など

18,859点

図4 震災関連資料の所蔵状況

県立伊保内高校 「復興・防災学習」(総合的な探究の時間) 2024年5月10日

(1) 課題設定 (事前)

防災をテーマに、生徒が深く調べたいことを考え課題を設定する。

例) 自然災害とハザードマップ、避難と高齢者・障がい者、ボランティア、震災後の伝承、災害後の健康被害など

(2) 「情報の収集」(I-ルームでの復興学習)



テーマに合わせて、職員が準備した図書から必要な情報を収集。もっと調べたいことについては、職員に相談しながら、必要な資料を探す(レファレンス支援)。

(3) 「整理・分析」「まとめ・表現」



I-ルームで必要な図書や資料を借り、学校でロイノートにまとめる。「テーマ設定の理由」、「分かったこと」、「地域の発展に活用できること」、「参考文献」など。

テーマにあった本をみつけ、必要な情報を抜き出す力、テーマについて深く調べる力、情報をもとに対策を考える力などが身に付いた!!

岩手県立図書館

図5 高校における「復興・防災学習」

3.2 自然災害や防災、安全を総合的に学ぶ拠点

「I-ルーム」は、地震、津波、火山、台風、大雪など、近年激甚化する様々な自然災害について総合的に学ぶことができる情報拠点となっている。本年4月には、東日本大震災・津波からの復興を振り返り、今後発生が懸念されている大規模災害等に備えるための提言等を行うことを目的として、大学教員やNPO、県職員等の有志による研究会「いわて防災復興研究会」が同所を活動拠点として発足し、県立図書館も会の運営に携わっている。研究会では、会員等による講演と研究・討議が行われ、対面とオンラインで広く県民に公開されている。

3.3 県内の震災津波関連施設等のサテライト的機能

「I-ルーム」は震災伝承施設⁵として登録されており、沿岸部にある様々な震災伝承施設と連携して防災に関する展示や各施設の特徴の紹介を行うことで、沿岸部への誘客を促進している。

4 おわりに

震災から十数年が経ち、復興には地方創生の側面も含まれ、大きな地域課題となっている。県立図書館としても、地域課題の解決に向けて力を尽くしていきたい。また、震災津波の教訓を未来に伝え、県民の災害への備えの意識を向上させるため、今後も様々な取組を進めていきたい。

おわりに 震災津波の教訓を未来に伝え、県民の災害への備えの意識の向上に向けて

「I-セミナー」(県立図書館主催の行事)

「家族で防災について学ぼうin遠野」
 遠野市教育委員会との連携事業で、遠野市で、「災害と妖怪」について学び、防災食を食べ、地元の小学生との交流を実施予定。

「紙ぶるる」(耐震を体験)、「フェーズフリー」、「災害救助犬」などのイベントを検討中。

震災関連施設や関係機関との連携

東日本大震災津波伝承館(陸前高田市)、県立野外活動センター、岩手県砂防災害課、日本赤十字社岩手県支部等との連携展示や企画イベントを予定。

沿岸部の岩手県立野外活動センターで、I-ルームの紹介や震災・防災関連の本を設置。小学生が本を読んでいる様子。





【行程】

| | |
|---------|-------------|
| 集合・受付時間 | 9:15 |
| 9:30 | 開会行事 |
| 9:45 | 岩手県立図書館 |
| 11:20 | 遠野市防災支援センター |
| 12:00 | 土曜地区センター |
| 13:00 | お昼食 |
| 13:30 | 岩手県立図書館 |
| 14:00 | 遠野市防災支援センター |
| 15:20 | 遠野市防災支援センター |
| 17:05 | 岩手県立図書館 |

岩手県立図書館 16

図6 今後予定している取組

(もりもと しんや)

⁵ 東日本大震災から得られた実情と教訓を伝承する施設であり、東北4県の震災伝承ネットワーク協議会事務局が登録している。

「震災伝承施設とは」震災伝承ネットワーク協議会事務局ウェブサイト
<https://www.thr.mlit.go.jp/shinsaidensho/sisetsu.html>
<https://www.thr.mlit.go.jp/shinsaidensho/facility/iwate-3-023.html>

国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館 特別研修「図書館資料のデジタル化」について

国立国会図書館総務部支部図書館・協力課

令和6(2024)年7月30日に標記の研修¹を実施した。本研修では、図書館資料をデジタル化する際の主な作業工程及び支部図書館を対象としたデジタル化データの収集に係る講義、メディア変換室(国立国会図書館東京本館の内製デジタル化専用スペース)の見学及び資料撮影作業の体験を行った。

(以下、国立国会図書館の東京本館、関西館及び国際子ども図書館の3館を、支部図書館に対して「中央館」と記載する。)

1 図書館資料のデジタル化²

まず、電子情報企画課資料デジタル化推進室から、中央館の資料デジタル化の目的、法的根拠、作業工程、外部委託時の留意事項等についての講義を行った。

資料デジタル化の作業工程は、「資料選定」、「スキャン」、「品質検査」、「データ登録」及び「公開」の5段階に分けられる。資料選定については、選定基準、事前調査の項目、外注・内製の振り分け基準等を、スキャンについては、データの品質要件、撮影機器の種類、スキャン環境やスキャナの調整、作業方法・ルール等を説明した。品質検査については、検査の方法や項目、検査後の作業等を、データ登録及び公開については、中央館ではJPEG 2000形式で、保存用データをLTO(磁気テープ)で保存し、提供用データを国立国会図書館デジタルコレクション(以下「デジタルコレクション」という。)³で保存・公開していること等を紹介した。

外部委託時の留意事項については、調達・実施スケジュール、仕様書や作業指示書・補足資料の項目、外注時の対象資料の搬出入や対象資料の保管・管理、作業管理、品質検査に係る留意点について具体的に説明した。

2 支部図書館を対象としたデジタル化データの収集

続いて、支部図書館・協力課から、支部図書館を対象としたデジタル化データ収集の意義、枠組みを説明した。

データ収集の意義については、中央館が所蔵していない資料のデータを中央館で長期保存し、デジタルコレクションで利用提供するため、資料原本の保存と幅広い利用につながることを説明

*本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2024年11月22日である。

¹ 研修資料は、「中央館・支部図書館総合システム」の「支部図書館職員ページ」に掲載し、支部図書館職員向けに公開している(G-Net限定で接続可。要ID、パスワード)。

² 図書館資料のデジタル化については、以下の情報も参考となる。

「国立国会図書館 資料デジタル化の手引き 2017年版」

<https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10341525_po_digitalguide170428.pdf?contentNo=1&alternativeNo=>

遠隔研修「資料デジタル化の基礎」<https://www.ndl.go.jp/ip/library/training/remote/digi_basic_2019.html>

「大公開！国立国会図書館での資料のデジタル化事業」『国立国会図書館月報』733号、2022.5、p.6-15.

<https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12233022_po_geppo2205.pdf?contentNo=1#page=8>

³ 「国立国会図書館デジタルコレクション」<<https://dl.ndl.go.jp/>>

した。

収集する枠組みについては、以下の2つを説明した。1つ目は、原則として中央館で未所蔵の資料から支部図書館がデジタル化したデータを中央館に提供する方法で、提供されたデジタル化資料は、各資料の著作権等の状況により、デジタルコレクションで「インターネット公開」、「図書館・個人向け送信」又は「国立国会図書館館内限定」のいずれかの範囲で公開する⁴。2つ目は、中央館未所蔵かつ著作権保護期間満了⁵の資料を、中央館内に設置された機器を使用してデジタル化しデータ提供する方法で、提供されたデジタル化資料は、デジタルコレクションでインターネット公開する。

3 メディア変換室の見学及び作業体験

講義の後、国立国会図書館東京本館にあるメディア変換室の見学及びデジタル化作業体験の時間を設けた。参加者が多かったため、3班に分けて行った。

撮影する機器、撮影作業の基本的な手順、注意点、のど元まできれいに撮影する工夫、検品のポイント等について、現場を見ながら説明した。そのあと、実際に資料撮影と検品の作業を体験していただいた。



写真1 撮影用の暗室



写真2 スキャン作業

4 おわりに

本研修の参加者からは、資料デジタル化や中央館へのデータ提供について、具体的な質問や相談が多く寄せられた。また、事後のアンケートでは、デジタル化の具体的な工程や外部委託時の留意事項等が参考になった、作業体験により実作業のイメージがつかめた、以前の研修内容から色々変更がなされており新しい知識を得られた、等の感想があった。

今後も同様の研修を行う予定であるので、その際には積極的に参加していただき、各館でのデジタル化の参考としていただければと思う。

支部図書館における資料デジタル化について不明点等があった場合は、支部図書館・協力課サービス係までお気軽にお問い合わせいただきたい。

(こくりつこっかいとしょかん そうむぶ しぶとしょかん・きょうりよくか)

⁴ 支部気象庁図書館所蔵から提供された天気図のデジタルデータは、国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている。

天気図【全号まとめ】<<https://dl.ndl.go.jp/pid/12896309>>

⁵ 団体名義の著作物の場合、1967（昭和42）年までに刊行されたものは保護期間が満了している。

令和6年度国立国会図書館行政・司法各部門 支部図書館職員への感謝状贈呈

国立国会図書館総務部支部図書館・協力課

令和6(2024)年9月2日に、支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館の倉嶋明子氏に、支部図書館職員としての10年間を超える勤務と支部図書館の向上発展への寄与に対する国立国会図書館長からの感謝状を贈呈しました。

倉嶋氏は、平成15(2003)年4月に農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報課に配属されて以降、計2度にわたり10年以上、支部図書館の業務運営に携わってこられました。現在は、主に研究情報の収集・管理及び提供に関する業務に従事されています。

長年の御尽力に、支部図書館・協力課をはじめとする中央館職員一同から深く感謝いたします。

今後ともよろしく願いいたします。



写真 農林水産技術会議事務局つくば分館（書庫）

(こくりつこっかいとしょかん そうむぶ しぶとしょかん・きょうりょくか)

図書館でデータベースを作るとは？

支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館 倉嶋 明子

1 はじめに

令和6(2024)年9月2日に、支部図書館職員として10年以上勤務したことに対する国立国会図書館長からの感謝状をいただきました。今回、感謝状をいただくことができましたのも、ひとえに国立国会図書館の皆様、関係する支部図書館の方々のご指導、ご尽力のおかげと深く感謝いたしております。

2 支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館

支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館（以下、「つくば分館」という。）は、支部農林水産省図書館の分館として、茨城県つくば市にある農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターに設置されています。近隣には、農業・食品産業技術総合研究機構、国際農林水産業研究センター、森林研究・整備機構森林総合研究所等の農林水産省関係試験研究機関が所在しており、各研究機関の研究者の方も来館利用されます。

つくば分館はまた「農林水産研究情報総合センター」として、日本の農林水産試験研究の円滑な推進を図るため、国内外より農林水産試験研究情報を収集、保管、提供する役割を担うとともに、国際連合食糧農業機関（FAO）等国際機関への協力も行っています。

3 これまでの業務を振り返って

私は、平成15(2003)年4月に農林水産省に採用され、分館職員として配属されました。当時の主な業務は、つくば分館で収集した農林水産分野の学術雑誌・研究報告等をもとに論文情報データベースを構築・運用するというものでした。また、許諾をいただけたものについては、全文情報についても公開していました。これは、現在公開・提供を行っている「AgriKnowledge」（アグリナレッジ）の元となっているデータベースです。

その後の異動により、農林水産省関係試験研究機関所属ユーザ向けのスーパーコンピュータの運用や、研究機関での所内ヘルプデスク・情報セキュリティ対応業務等、図書館とは全く関係のない情報システム関連の業務を経験しました。スーパーコンピュータに至っては、周囲で飛び交う言葉が全く分からず「???」の連続というレベルからのスタートでした。情報システム関連の知識は自分で調べ、勉強する必要がありましたが、その後の業務に生かすことができることも多く、自分にとって大切な経験となりました。

また、研究機関の図書館に異動し、3年間勤務したこともありました。そこでは研究者の方からの要望に応えるため、国立国会図書館の「図書館間貸出しサービス」や「レファレンスサービス」を利用させていただきました。研究機関でもオンラインジャーナルの導入は進んでいますが、特に社会科学系分野などでは図書資料を求める研究者の方も多く、どうしても相互貸借をお願いできる機関が見つからない時に、つくばから東京まで出向かずに郵送貸出していただけの「図書館間貸出しサービス」には、大変お世話になりました。

4 AgriKnowledge

異動で再びつくば分館に戻り、採用の時に携わっていた論文情報データベースの構築・運用の業務を行うようになり5年が過ぎました。先に述べました「AgriKnowledge」というシステムで、農林水産関係の学術雑誌・研究報告等に掲載された論文の書誌情報や全文情報を検索することができます(図1)。インターネット上で公開しており、どなたでもご利用いただけます。論文情報の収録件数は約35万件、全文情報については約19万件(2024年9月末時点)とな



図 AgriKnowledge (<https://agriknowledge.affrc.go.jp/>)

5 さいごに

大学で図書館情報学を学び、専門図書館で働くことに憧れて運よくこの世界に入ることができましたが、いわゆる「図書館業務」とはほぼ縁がなく、データベースとともに10年以上を歩んできました。それがつまらないということではなく、データが蓄積されて増えていく達成感や新しい技術に触れるおもしろさがあり、利用者の方が増えればやりがいにもつながります。ただ先日、目録関係のオンライン研修を受講したところ、「これは何だっけ?」「こんなのあったんだ!」の連続で、自分の知識の古さに落胆しました。絶えずアンテナを張って、身につけた内容を常にアップデートさせていく必要性を感じました。

たくさんの方にご指導いただき、また支えていただきながら図書館で働くことができることに感謝し、農林水産研究情報を求める皆様のお役に立つことができるよう、日々の業務を積み重ねて図書館やデータベース等を利用する皆様の環境を整えるとともに、これからも様々な業務の経験を積んで知識を身につけていきたいと思えます。

(くらしま あきこ)

震災アーカイブが残すべき

「記録」と「記憶」

について

■ 主なプログラム(敬称略)

< 研究報告 >

- ・ 災害対応史と日本災害デジタルアーカイブの活用
専修大学 ネットワーク情報学部 教授 佐藤慶一
- ・ 防災志向型デジタルアーカイブの問題点の整理と提案
ー「災間の社会」における震災アーカイブの意義を更新するー
情報科学芸術大学院大学 産業文化研究センター 研究員 高森順子
※ 当日会場には参集せず、事前収録した講演動画を上映
- ・ ニュージーランド・カンタベリー地震関連資料と震災アーカイブ
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授 水本有香

< 進捗報告 >

- ・ 震災アーカイブポータル「ひなぎく」の役割と現況
国立国会図書館 電子情報部 主任司書 小林芳幸
- ・ 近年の自然災害のデジタルアーカイブについて
東北大学 災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛

< パネルディスカッション >

参加無料

お申し込みは
「みちのく震録伝」
案内ページから



2025年

1/11 (土)

開場 12:30

プログラム 13:00 ~ 16:00

東北大学 災害科学国際研究所

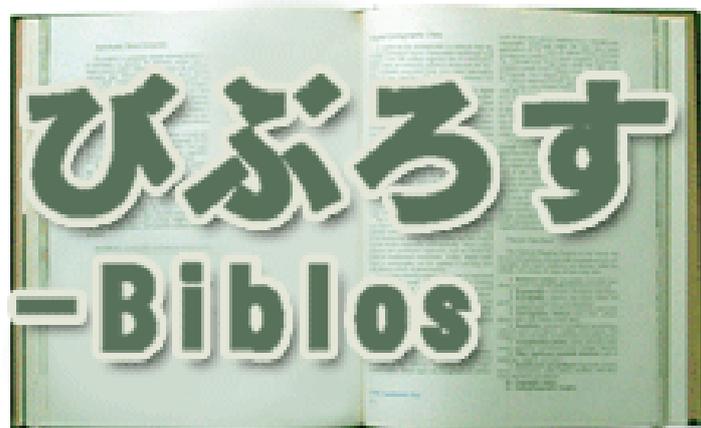
(宮城県 仙台市)

+ オンラインライブ配信

(Zoom)

■ お問い合わせ 東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野
電話 022-752-2099 / メールアドレス archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

■ お申込み <https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20250111/>



99号

令和6(2024)年12月

発行 / 国立国会図書館総務部

ISSN : 1344-8412

web版もご活用ください

<https://www.ndl.go.jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan